

1 全体計画

学校の教育目標

○地域に生きる南台の子 ・かしこく ・やさしく ・げんきよく

令和2年度学校経営方針

1 地域に根ざした開かれた学校づくり 2 豊かな心の育成 3 学力と体力の向上

本校の捉える「確かな学力」

○主体的に学びに向かう力 ○基礎的・基本的な知識技能の定着 ○思考力・判断力・表現力

令和2年度の指導の重点

<各教科>

- ・主体的・対話的な学びになるように授業改善をしていき、学びに向かう力を育てる。
- ・個に応じた指導を充実させ基本的な知識・技能を身につけると共に、問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。

<総合的な学習の時間>

- ・自ら課題を見つけ、解決していく探究的な学習を通して、自分で問題を解決していく力やもの見方・考え方を育成する。

<生活指導>

- ・安全・安心を第一に、思いやりの心や社会生活のルール・マナーを身に付けさせ、学習や生活における規範意識を育成する。

<特別の教科 道徳>

- ・他者の考えを受け止め、よさや違いを分かり合いながら、自己を見つめ、自分の生き方について考えようとする児童を育てる。

<進路指導>

- ・予測が困難な社会の変化に主体的に対応するため、生涯を通じて学ぶ態度や能力の育成を図る。

<特別活動>

- ・話し合い活動の仕方を身に付け、多様な集団活動を通して、自主的に活動を創り上げる意識と実践的態度を育てる。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・かかわりながら学ぶことで、学力を身につけるとともに、よりよい人間関係をつくる。
- ・ICT等による個に応じた指導や見通しと振り返りにより主体的な学びを実現する。

教育課程編成上の工夫

- ・計画的な放課後学習を行い、基礎基本の定着をはかる。「寺子屋南台」
- ・夏季休業中にも「補充学習（寺子屋南台）」の学習を行う。
- ・教科の関連を踏まえ 指導計画を考える。

評価の工夫

- ・座席表などを活用し、子供を見取り記録していく。
- ・評価を次時の学習に活かし、指導と評価の一体化を行っていく。
- ・観点が変わったので、評価の観点についてそれぞれの観心の趣旨を共通理解していく。

校内研究・研修の工夫

- ・どの教科でも「豊かなかわり合い」を生かした授業構成を行う。他教科・領域の横の繋がりだけでなく、異学年との縦の繋がりも考慮できるよう「総合的な学習の時間」「生活科」を要に研究を行う。

家庭・地域との連携の工夫

- ・学校経営方針に基づいた学校の考え方を保護者や地域に伝え、共有し、地域と共に子供を育てるようにする。
- ・地域の人材を活用した授業を公開していく。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の児童の実態を把握する。
- ・放課後補充教室にて、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。
- ・夏季休業中に補充学習において、全学年のサポートを行う。

ALTの活用の工夫

- ・年間計画を示し、ALTの活用場面を学校全体で共有する。
- ・ALTとの十分な打合せを行い、授業内容の工夫を行う。
- ・教室でのICT機器の活用と併用し、ネイティブな発音で児童に伝え、活動を行う。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・授業だけではなく様々な場面で、相手の話を注意してよく聞く習慣をつけ、何を話していたのか確認し、最後まで聞き、内容を理解しようとする態度を養う。聴写も取り入れていく。
- ・書くことの単元や国語の時間だけでなく他教科他領域でも書く活動を取り入れていく。
- ・語彙力や読み取りの力を身に付けさせるために、読書活動を多く取り入れたり、国語辞典や類語辞典を使った活動や言葉集めを行ったりする。
- ・話の内容を読み取ることや、自分の思いを言葉で表現することへの苦手意識をなくすために、授業時間のみならず、家庭学習との連携を図り、継続して復習を行い習慣化する。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○正しい口形を意識しながら、楽しんで音読しようとする児童が多い。	○音読を積み重ねることで、文章の内容を理解したり、登場人物の心情などをより深く考える力を育てたい。	○1人やグループ、クラス全員等読み方を工夫したりしてより音読を楽しめる場を設定する。
	○文字の学習において、字の形を捉えることができるようになった児童が多い。画の長さや方向等はまだ個人差が大きい。	○読み手に分かりやすい正しい文字を書けるようになってほしい。日常の様々な書く場面でも正しい字、読みやすい文で書くことが課題である。	○教室内に平仮名50音表を掲示し、いつでも正しい字形を確認できるようにする。日常生活の中で、相手意識をもたせる活動を設定し、日常の書く場面でも相手や自分が読みやすい文字を書くよう心がける。
	○文章の中で「は、を、へ」などの助詞の使い方を習得できていない児童もいる。	○助詞を的確に使い、相手に分かりやすい文を書いたり、話したりする力が必要である。	○言葉を文末まで話すことができるよう指導する。適切に助詞を使えるよう、言語環境を整える。文を書いた後は、自分で声に出し読み返すことで文を推敲する習慣を付けさせる。
○話を聞く時に集中が続き、最後まで話を聞くことができない児童もいる。	○教師や友達の話聞き、学びをより深めたり、考えを広げたりしようとする姿勢に個人差がある。	○話を聞く時の姿勢を整える。教師や友達の話聞くと嬉しい、学びが広がり楽しいと思える体験を重ねることが聞く意欲につながる。日々の授業から話題を明確にした上で、児童の多様な発言を活かす話し合い活動の場作りに努め	

2年	<p>○発問や問題文を理解することができない児童がいる。よく読まず、自分の解釈でとらえ、解いてしまう。</p> <p>○文章を書くことに慣れていない。思いや考えをふくらませて書くことができない。</p> <p>○自分の考えや友達の考えを整理して聞いたり、話したりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○読み物教材の学習では、様子や心情の読み取りが中心で、言葉に対する着目のさせ方が弱い。</p> <p>○話型の例示が少ない。組み立てを考えながら文を書くことが苦手である。</p> <p>○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることが大切。</p>	<p>る。</p> <p>○読書を推進し、読み聞かせなどを行うことによって、文章への興味や言葉に対する着目の仕方を養う。</p> <p>○書かせるだけではなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを提示する。書きたいことをメモに書き、組み立てを考えながら書くように指導する。家庭学習に日記を取り入れ、書く機会と指導の機会を増やす。</p> <p>○伝えたいと思わせるような題材の提示を行う。相手意識をもたせて発表したり、話し合ったりする活動を増やす。</p>
3年	<p>○発問や問題文を理解できない児童がいる。問題の意味を自分の解釈でとらえ、解いてしまう。</p> <p>○全体的に受け身に学習態度で、わからない言葉があっても進んで調べる児童は多くはない。</p> <p>○文章を書くことに慣れていなく、表現を工夫しようとする姿勢があまり見られない。</p> <p>○自分の考えを整理して話すことを苦手としている児童がいる。友達の考えのよさに気づき深めていこうとする姿勢があまりみられない。</p>	<p>○読み物教材の学習では、様子や心情の読み取りが中心で、言葉に対する着目のさせ方が弱い。</p> <p>○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることを大切にする。</p> <p>○書くことや伝えることのよさを実感できる指導ができていない。書いて表現する学習が少ない。</p> <p>○友達の話を聴きあったり学び合ったりして深めていくよさを実感できていない。わかろうとして聴いたり読んだりできていない。</p>	<p>○読書を推進し、文章への興味や言葉に対する感覚や着目の仕方を養う。</p> <p>○子供の疑問を大切にし、意欲が高まる教材を提示したり、活動を取り入れたりとしていく。辞書の活用を習慣化していく。</p> <p>○書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを提示する。全教科・領域で書く機会を増やしていく。</p> <p>○スピーチメモや話型を用いて、内容を整理して話す指導をする。学び合いを多く活用し、わかろうとして考えながら聴くように指導していく。</p>

4年	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読んで内容を理解したり、話を聴いて理解し、それを深めていく力が十分ではない。友達の考えを聞いたり、感想を伝えたりすることが少ない。 ○漢字の書きが定着しない。語彙力がない。 ○文章を書くことを嫌う子が少なくない。 ○自分の考えを整理してわかりやすく話すことを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の話を聴きあったり学び合ったりして深めていく良さを実感できていない。考えながら聴いたり読んだりできていない。 ○漢字の書き取りの練習に偏りがちである。 ○書くことや伝えることのよさを実感できる指導ができていない。 ○相手意識・目的意識をもって伝えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの場面で学び合う活動を取り入れ、考えを深めていたり、新しい考えに気付いたりする楽しさを味わわせる ○漢字練習だけでなく、漢字の意味や使い方などを、漢字辞典や国語辞典を使って学ばせる。 ○子どもが書く意欲が湧くような題材を設定する。書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを発表し合う。 ○書く活動や話す活動では相手意識・目的意識を明確にしてから活動に入るようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字や語彙の習得が不十分な児童が多い。 ○書く内容にあまり工夫がなく、より豊かな言語表現で伝えようとする姿勢がない。 ○物語文、説明文ともに、読み取る力が育ってきた。 ○内容を理解しているものの、それがテストの点数に反映されない。 ○自分の考えを伝えることに抵抗感をもつ児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○練習の積み重ねが少ない。 ○どういうことを書けば良いのかを理解していない。 ○テストの受け方(回答の仕方、見直しなど)を理解していない。 ○他者とのコミュニケーションを苦手に思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年で「漢字まとめテスト」を実施し意欲をもたせる。新出漢字は、パーツで覚えられるよう、指導の際工夫する。 ○具体的に書く内容を例示する。また、宿題に作文を取り入れ、家庭とも連携を図る。 ○テストの受け方を改めて指導する。 ○ペア活動から積極的に取り入れる。担任がフォローに入る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なことを漏らさず聞き取ることが難しい児童が多い。 ○語彙が十分でなく、習った漢字を正しく活用できない児童がいる。 ○ローマ字が定着してお 	<ul style="list-style-type: none"> ○要点の聞き取り方とメモの取り方の練習が足りていない。 ○学習した漢字を使って文章を書く練習が足りない。 ○ローマ字の反復練習が 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な教育活動の中で、簡潔にメモをとる場面をつくり、習慣を身に付けさせる。 ○習った漢字を使って文章を書く経験を増やしながら語彙を増やす。 ○パソコン入力でローマ字を使

らず、正しく活用できない児童が多い。

○物語文、説明文ともに、読み取りの力が身に付いていない。

○段落等の文章の決まりを守り、効果的な構成を考えた文章を書くことが難しい児童が多い。

○自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。

足りない。

○物語文や説明文の構成や段落相互の関係に着目して読むことの活動が少ない。

○段落や構成を意識して文章を書いたり、互いの作品（作文）を読みあう経験の積み重ねが足りない。

○表現することに切実感がない。

う場面を多くして興味を高め、活用しながら身に付けるようにする。

○物語文や説明文の構成や段落相互の関係を分かりやすく示し、文章の構造や主題を考えながら読むことを指導する。

○書くことの指導過程を踏まえて重点をおきながら指導し、書く意欲を高め、書く方法を身に付けさせる。作品の交流を通して互いのよさを認め合えるようにする。

○考えたくなる、話したくなる問いを提示する。

(2) 社会科

社会科の重点

- ・問題解決的な学習を通して、社会的事象の見方・考え方を育てる。
- ・主体的な学びになるように、学習計画や学習の振り返りを大切にして、見通しをもって学習できるようにする、
- ・「つかむ」「調べる」「まとめる」の各学習過程において、疑問を交流したり、友達と協力して調べたり、考えたことを伝えあったり、協働的・対話的に学習を進め、学びを深める。
- ・学校だけではなく、社会とのつながりを考え選択・判断を大切にし、地域社会に親しみをもてるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、地域の見学に行くことはできなかったが、白地図にまとめるなどの活動は楽しそうに取り組んでいる。 ○疑問から調べたいことを考えられる児童が少なく、問題意識をもって取り組めていない。 ○わかった事実を比較・関連・総合させていくのはむずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は感染予防のため、校外学習や体験的な活動に取り組みにくかった。 ○活動には興味をもっているが、社会科としてのねらいにそった内容に興味関心をもたせることが十分ではない。 ○児童の気づきなどを言語化して全体に共有していく活動が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が興味や疑問をもつ資料や教材を選び、提示方法や発問を工夫する。学習計画は児童の予想をもとに、一緒に考え、見通しをもたせる。 ○児童に問題解決的な学習の流れを説明し、各単元で繰り返し行う。 ○集団の規模や内容を工夫しながら、気づきを共有できるように、感染予防に気をつけながら児童が学び合う活動を大切に、見方・考え方を活用できるように指導していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○地図を見る活動や地図にまとめる活動、資料を読み取る活動は意欲的に取り組むが、問題解決的な学習につながらない。 ○疑問から調べたいことを考えられる児童が少なく、問題意識をもって取り組めていない。 ○見学などでわかった事実を比較・関連・総合させていくのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動には興味をもっているが、社会科としてのねらいにそった内容に興味関心をもたせることが十分ではない。 ○児童の気づきなどを言語化して全体に共有していく活動が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が興味や疑問をもつ資料や教材を選び、提示方法や発問を工夫する。学習計画は児童の予想をもとに、一緒に考え、見通しをもたせる。 ○児童に問題解決的な学習の流れを説明し、各単元で繰り返し行う。 ○児童の実態に応じて、集団の規模や内容を工夫しながら、気づきを共有できるように、児童が学び合う活動を重ね、見方・考え方を活用できるように指導していく。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りが苦手な児童が多い。 ○既習事項をもとに問題や解決策を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方を理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、資料から気付いたことを見付け、友達と共有する時間を設ける。見やすくわかりやすい資料を選ぶ。 ○自分事と捉えられるように、身近な具体例を提示する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取り、または資料の読み取りから判断、考察し表現することができない児童が多い。一方で読み取れる児童もいる。 ○考えを共有することが好きな児童が多い。一方で表現することが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りを個人で行う活動が少ない。スモールステップが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意図をもって資料を示し、読み取る観点を示しながら、読み取ったことを自己の経験等の情報と関連付けて考察する機会を増やすことで、生きてはたらく知識の習得を目指す。 ○児童同士で読み取ったことを共有する機会を十分に確保する。

(3) 算数科

算数科の重点

- ・ 数学的な思考力を高めるため、グループやペアなど、対話的な学習を多く取り入れた授業を展開する。
- ・ 課題解決学習を取り入れ、主体的に課題に向き合い、見通しをもち、自ら創意工夫し、解決を図る能力を培う。
- ・ 学習や単元の終わりに、その学習の振り返りをさせることにより、既習事項を活かしてより深い学びに気付く機会をもたせる。
- ・ 知識や技能を、より定着させるために、少人数指導や個別指導で基礎・基本の徹底を目指した授業の展開を図るとともに、東京ベーシックドリルやくり返しドリルを朝学習や宿題として活用し、復習や補習を充実させる。家庭へ働きかけ、家庭学習の習慣化を図る。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 足し算や引き算の場面を考えられるようになり、立式はできるようになった。問題作りができる児童が多いが、問題場面がイメージできず、言語化をすることも難しい児童もあり、問題づくりができるか否か、個人差がある。 ○ 計算の正確さや速さに個人差がある。 ○ 時計の読み方の習熟に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面を理解する力に大きな個人差がある。 ○ 数の概念の獲得状況に個人差があり、計算の仕方にも個人差がみられる。急いで計算して、加法なのか減法なのか見落とす児童も多い。 ○ 日常生活で時計に触れる経験に差があり、習熟にも個人差が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や簡単な図を提示したり、既習の問題を振り返られるように掲示を工夫する。また、日常生活の場面と学習がつながりをもてるようにし、学習が生活に生きる経験を重ねさせる。 ○ 個人差があるため、ブロック等を使って考える、指を使って考える、簡単な図に描いて考える等、自分の段階にあった補助方法の活用を児童が選択できるよう、各教室に教材や教具を常備し、いつでも使えるようにしておく。「はい、かんたん、せいかく」等、よりよい算数的処理をめざせるよう意識付ける。 ○ 折に触れ時計を読んだり、時計を見て行動させたりして、確実な習熟を図る。模型を使い自分で針を動かす活動をさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算の式をたてることは出来るが、意味を理解したり、考えを説明することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に考えさせる時間や発言の場を多く設けることや、繰り返し復習させていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書画カメラを使って、教科書の図や良い意見を書いた友達のノートを映して、考えさせる。具体物を使った算数的活



	<p>○問題を意欲的に解いていても、正確に計算できていない児童が見られる。</p>	<p>○見直しの時間を設けたり、個々に細かく指導する必要がある。</p>	<p>動を児童の個々の実態に合わせて行わせ、思考過程の時間を確保する。</p> <p>○机間指導やノート等を使って細かく指導したり、正確に計算できるよう声かけをする。</p>
3年	<p>○基礎的な問題を解くことはできるが、少し思考が必要になる応用問題では無答の児童がいる。</p> <p>○解法を知っていても何故それが正しいのかを理解せずに使っている。</p> <p>○計算問題や、算数的活動に積極的な児童が多い。</p>	<p>○思考の流れやつながりを意識して学習に取り組めていない。(正答か誤答かのみ意識があり、過程の扱いが軽い。)</p>	<p>○学習の中で、友達の考えから学ぶ機会を設ける。よい学び方をしていたら全体に広げて、よい学習の仕方を意識させる。</p> <p>○ノート指導を充実させ、思考の流れが分かると同時に振り返りをさせる。</p>
4年	<p>○計算問題や、算数的活動に積極的な児童が多い。</p> <p>○単位ミス、簡単な計算ミスが目立つ。</p> <p>○基礎的な問題を解くことはできるが、少し思考が必要になる応用問題では無答の児童がいる。</p> <p>○図形やグラフをかくこと、分度器やコンパス、三角定規などの使い方が難しい児童もいる。</p> <p>○なぜこうなるのかななどの説明などが難しい児童もいる。</p> <p>○言葉を読み取る力が弱いいため、題意を理解で</p>	<p>○長さの単位や量の単位などを復習させていくことが必要である。</p> <p>○思考の流れやつながりを意識して学習に取り組めていない。(正答か誤答かのみ意識があり、過程の扱いが軽い。)</p> <p>○数学的活動と日常が結びついていない。</p>	<p>○新出の単位が出た時や、問題などで単位の変換が出てくる授業では、導入などで復習をさせることで、既習事項も含めて定着を促す。</p> <p>○学習の中で、友達の考えから学ぶ機会を設ける。よい学び方をしていたら全体に広げて、よい学習の仕方を意識させる。</p> <p>○ノート指導を充実させ、思考の流れが分かると同時に振り返りをさせる。</p> <p>○既習事項とのつながりを意識させ、日常場面と問題場面を結び付けて指導を行う。</p>

	<p>きない児童が多数いる。また、計算はできている。また、計算の仕組みを理解したり、計算の方法を工夫したりする応用力が弱い。</p>		
5年	<p>○発問や問題に対して積極的に取り組んでいる児童は多い。</p> <p>○図形やグラフをかくこと、分度器やコンパスなどの使い方が難しかったり、単位や計算間違いが多かったりする児童もいる。</p> <p>○言葉を読み取る力が弱い。また、題意を理解できなかつたり、場面を想像できなかつたりする児童が多数いる。</p> <p>○なぜこうなるのかななどの説明などが難しい児童もいる。</p>	<p>○単位や分数、大きな数について復習させていくことが必要である。</p> <p>○自分で図や数直線をかいて考えられるようにすることが必要である。</p> <p>○問題を読み取る力を付けることが必要である。</p> <p>○数学的活動と日常が結びついていない。</p> <p>○自分の意見、考えの根拠になるものを考えさせていく。</p>	<p>○コンパスや三角定規を使用した三角形、四角形の復習を適宜取り入れていく。</p> <p>○図や数直線を用いて考えることが効果的な場面を判断できるよう声をかけていく。</p> <p>○問題文を音読したり、サイドライン等を引いたりして、問われていることへの理解を促す。また、教材や教具を用い、具体的な場面理解を促す。</p> <p>○学習の振り返りを児童の言葉からまとめさせる。自らの言葉で正しく理解できているか振りかえさせる。</p> <p>○既習事項の確認をしたり、隣同士で考えや意見などを交換しあったりして、自ら気づく機会を設定したり、自分の考えの根拠を見つけさせていく。</p>
6年	<p>○発問や問題に関して積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>○図形の面積や体積、特に円周率など小数点が入ってくる掛け算が難しい児童がいる。</p> <p>○先取り学習をしている児童もいるため、数学的思考力が高まりにくい児童もいる。</p>	<p>○小数の入った掛け算、割り算の復習をしていく必要がある。</p> <p>○既習した知識や学習内容を別のものに応用できるようにさせる必要がある。</p>	<p>○導入などで小数の入り混じった計算を適宜復習させていき、計算ミスをなくしていくことを目指す。</p> <p>○学習に入る前に前時の内容や、前学年などの内容も想起させながら既習事項と学習内容を結び付けて定着を図る。</p>

--	--

--

--

習熟度別少人数指導の充実に向けて

- ・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の指導を行うとともに児童の実態を把握する。
- ・レディネステストを行い、児童の実態を把握してクラスを編成していく。
- ・放課後補充教室やにて、夏季休業中に補充学習において、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。

(4) 理科

理科の重点

- ・ 観察・実験の技能を高めるために、各単元の「観察のポイント」、「実験のポイント」を明確にし、継続的に指導を続け、技能を高める。また、観察・実験に必要な知識・技能の確認を定期的に行う。
- ・ 問題→予想・仮説→計画→実験→結果→考察→結論の流れを提示し、授業の展開を視覚的にパターン化して取り組ませることで、学習の目的を明確にする。
- ・ 目的意識をもって実験に取り組むために、各単元での問題作りを確実にを行う。何のためにこの実験をするのか、毎時間のねらいを児童に対して明確に把握させる。また、結果や考察、結論で、問題を振り返り、実験から得たことを知識として習得できるようにする。
- ・ ノート指導を通し、観察・実験等の記録の仕方、自分の考えの表現の仕方を指導する。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○観察の視点を知ると、数値や例えた表現を用いて具体的に記録できるようになってきた。 ○何を調べるための実験か、意識が足りなかったり忘れてしまったり、問題と結果と考察の整合性がない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視点の意識の継続 ○ものを比較して考える力の向上 ○問題に対する結論を適切に書く力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察の視点の明確化。短冊や板書で示し、意識できるようにする。 ○理科の用具を効果的に使い、充実した観察ができるようにする。 ○実験の流れ（問題から結論まで）を繰り返し、記録の付け方、結果から考察へのつなげ方、問題から結論まで一貫性のあるまとめ方を学ばせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物をしっかりと観察しようとする力や、それを表現する力はあまり育っていない。 ○疑問から課題をもち、それを明らかにする、学習の流れに慣れていない ○実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、実験や観察のポイントを示しても、それに沿って観察ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物への関心はあるが、観察のポイントや表現の仕方が分からない。また、児童の自然体験に差がある。 ○目的意識をもって、問題を解決するということ、理解できていない。解決した達成感を味わえていない。 ○児童数が多く正確に観察や実験を行っているか見とれず、その場の指導が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察のポイントについて共通理解をし、よい例示をしたり、友達の観察のよさを見つけたりする学習を行う。学習以外でも継続的に動植物とかかわる機会を設定する。 ○疑問を大切にし、観察や実験を行う際に必ず何のために行うのかを明確に示す。その上で、実験の方法を考えたり、結果を考察したりする時間を十分に確保する。 ○少人数グループ単位で観察や実験をさせ、正確にできている児童を取り上げ、正確にできていない児童に教えるな

	<p>○実験結果を考察したり、次の問題を導き出したりすることが難しい児童がいる。</p>		<p>ど、相互に学び合える体制をつくる。</p> <p>○観察や実験の観点を具体的に例示し、適切に書けている児童の観察カードや記録カードの記入の仕方を紹介し、指導する。</p> <p>○学習の流れを再確認し、考察の仕方について指導する。予想や実験結果を少人数で話し合ったり、全体で共有したりして、考察する時間を確保し、よりよい考察について考えさせる。</p>
5年	<p>○実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、実験や観察のポイントを示しても、それに沿って観察できない児童がいる。</p> <p>○実験結果を考察することが苦手な児童が多い。</p> <p>○学習問題に対する結果を自分たちでまとめることができる。</p>	<p>○指示理解が苦手な児童に合わせた指導ができていない。</p> <p>○考察の仕方が十分に理解できておらず、どんなことを記述すべきなのか十分に理解していない。</p>	<p>○より丁寧にポイントや取り組み方を説明する。</p> <p>○実験結果を少人数で話し合うなど、考察する時間を確保し、よりよい考察について考えさせる。</p> <p>○スムーズに実験を行えるように、理科TTと連携を図り準備を行う。</p> <p>○記述の型や枠で書き方、形式を示し、学習の振り返りをこまめにして、自分の言葉でまとめることを習慣化していく。</p>
6年	<p>○実験・観察に意欲的な児童が多い。</p> <p>○学習内容が理解できたつもりでも、定着せず学習した知識をもとに、別の事象に結び付けて考えたり、推測したりして活用することができない児童がいる。</p>	<p>○実験における実体験が知識・理解につながらない。</p> <p>○考察の仕方を十分に理解していない。結果から何がいえるかを考えることが苦手。</p> <p>○学習したことを一般化して応用することが難しい。</p>	<p>○実験結果からどのようなことが考えられるのかについて考えを友達と共有する時間をとることから、考察として何を書くことが好ましいかを理解できるようにする。</p> <p>○ビデオなどの視聴覚教材を効果的に活用して家庭や身の回りに活かされている具体例を示し、生活と関連付ける活動を増やす。</p>

(5) 生活科

生活科の重点

- ・児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習にする。【思いや願いをもつ】
- ・児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、人や社会、自然と身体を通して直接関わりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行うことを重視する。
【活動や体験をする】
- ・活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。【感じる・考える】
- ・表現したり、行為したりすることを通して、働きかける対象についての気付きとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにする。【表現し行為する】

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に対して、前向きに活動できる子もいれば、受け身になっている児童もいる。 ○児童自らが思いや願いをもち、学習活動を進めるまでには至っていない。生活科の学習は何か、児童や保護者に伝わっていない。 ○近くの友達同士で交流はしている児童もいるが、その交流が学級に広まり、次の活動の方向性を決めるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科の学習内容が児童に伝わっておらず、教師が主導の活動になっている。 ○学習指導計画の作成が十分でなく、活動に向けての準備が十分にできていない。毎時間の授業の流れの中で思いや願いをもたせられていない。 ○交流が広がらず、うまくできなくてあきらめてしまう児童もいる。1人1人の気付きを交流させ広げるに教師の指導が至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画を練り、児童の思いや願いが実現しやすいような活動の場や環境設定を充実させる。 ○生活科の学習で育てたい力を担任同士が共通理解し、幅をもたせた計画や準備ができるようにする。 ○授業での教師の役割を見直し、児童の気付きを見つけ、生かせるような支援の仕方を考える。 ○関わり合いが生まれるメンバー構成や場の設定などを考える。

<p style="text-align: center;">2 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習に制限があったため、直接的な関わりが少なく、学習内容を身近なものにあまり感じられていない様子もある。 ○自ら課題を見つけ、興味・関心や意欲をもって、学習に取り組めた。 ○自然や地域との関わりについての気づきを自分の言葉として表現することに課題が見られる児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいに問題意識や興味関心が向くような、教材選びや課題の設定が必要。 ○一人ひとりの気づきや思考をみとる方法の吟味が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習以外のところでは、ゲストティーチャーの活用や写真など視覚的にうったえるものを多く取り入る。 ○気づきの記録を視覚的に残す。 ○気づきや思考をみとるための振り返りを細目にする。 ○気づきのメモや、まとめ方について、例示をもう少し具体的に示す。
--	---	--	--

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・すべての児童が主体的に、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように、音楽の基礎・基本、及び、学びに向かう態度を育てる。
- ・対話的な学びを通して、音楽の諸要素や仕組み、歌詞の内容を手がかりにして曲想を感じ取り、より深く音楽のよさを味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりできるようにする。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、感染拡大防止のため鍵盤ハーモニカの学習の開始が遅れた。 ○鑑賞では、曲の様子を感じて言葉で交流する活動が深まりきらなかった。 ○リズムを楽しみながら、体を動かし音楽に親しんでいるが、曲の様子を考えて豊かな表現をしている児童は少ない。 ○階名唱に親しみ、楽しんで歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タンギング・指使いが未習熟の児童が増える可能性がある。 ○児童がもつ語彙が少なく、感じたことを言語化するに至っていない。 ○どの楽曲でも同じように大きな声で、怒鳴るように歌ってしまう児童もいる。情景を思い浮かべながらのまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間指導の中から、タンギングの仕方と指使いを確認し、一人一人の奏法指導を行う。 ○鑑賞の後に、個々の児童の思いを交流する活動を取り入れ、気づきを広げ、さらに楽曲への親しみがもてるようにする。 ○言葉の意味を知ったり、曲の情景のイメージを広げたりさせながら曲に親しませる。曲に繰り返し親しませ、歌詞を覚えることで言葉に思いを乗せた表現ができるようにする。 ○階名唱が鍵盤ハーモニカの学習に生かせるよう、様々な楽曲で親しませるとともに、鍵盤ハーモニカの学習では無理なく学習できる段階的な指導を心がける。
	<ul style="list-style-type: none"> ○歌の音程がとれない児童もいるが、よい音程で歌い、しっかりとリズムを取ることができる児童が多い。 ○発言、発表がすすんでできる児童は限られてはいるが、友達の発言を聞いて学習することができる児童は多くい 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌声のコントロールができない児童がいる。(声の出し方) ○積極的に表現できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容や曲の感じに合った表現を工夫する活動を通して、「元気な歌声」だけでなく、様々な音色があることを知り、発声の仕方を工夫できるようにする。 ○ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動を行ったり、ワークシートに記入したりして、発言できるようにする。

	<p>る。</p> <p>○前期は鍵盤ハーモニカや他の楽器を扱うことができなかつたので、運指の練習が十分ではなかつた。</p>	<p>○鍵盤ハーモニカの運指の定着に差がある。</p>	<p>○音を出さずに指遣いだけの練習をしっかりと行い、場所などを考慮し音を出して練習する機会を設定する。</p>
3年	<p>○全体的に落ち着いて意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○発言は決まった児童になることが多い。</p> <p>○読譜はほぼ全員理解できた。リコーダーの学習も楽しんで取り組んでいる。</p> <p>○歌声のコントロールはできてきたが、音程を合わせることができない児童がまだ多い。</p>	<p>○発言しない児童が多い。</p> <p>○知識・技能の面で、必要なことが身に付いていない児童が数名いる。</p> <p>○正しい音程で歌えない。</p>	<p>○ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動を行ったり、ワークシートに記入したりして、発言できるようにする。</p> <p>○授業での個別対応、児童同士の教え合い活動、放課後を使った補習でできるようにする。</p> <p>○正しい音と自分の歌声を比べて聴いたり、自分の出せる声の高さを調べたり、自分の歌声をよく聴く機会をつくる。</p>
4年	<p>○聴こうとする気持ち、全体に伝えようとする気持ちとその技能が低い。</p> <p>○意欲的な児童が多いが、私語が多く話が聞けない。</p> <p>○歌声はよく出るが、聴いて合わせることができない。ハーモニーをつくることができない。</p>	<p>○私語が多く話を聞けない、全体に話す声が小さい児童がとても多い。</p> <p>○音程を合わせて歌ったり、二部合唱したりすることができない。</p>	<p>○担任、他の専科と協力して、話の聞き方の共通ルールを決め徹底する。相手に伝わるように場に応じた声の大きさを意識させる。</p> <p>○自分の声と周りの声を聴いて音の高さを比べたり合わせたりして、聴く力を高める。簡易な二部合唱に取り組み、声を重ねる経験を増やす。</p>
5年	<p>○全体的に意欲的な児童が多い。一方で、苦手意識の高い児童や、いい加減な態度の児童が目立ってきた。</p> <p>○リコーダーの運指に自信がない児童もいるが、ほとんどの児童が自分で練習を進めるこ</p>	<p>○学習態度がよくない児童がいる。</p> <p>○技能面で自信がない児童がいる。</p>	<p>○担任、学年、専科で連携して、児童の学習態度について共通理解を図り、指導する。</p> <p>○できないことをできるようにしたいと思っているので、その意欲を大切にして、個別指導、児童同士の教え合いを行う。</p>

	<p>とができる。</p> <p>○どのように表現するかについて思いをもてるが、そのための技能が十分身に付いていない。</p>		
6年	<p>○音楽への興味が自分の知っているごく狭い範囲でしかもてず、知らない音楽に対して興味をもとうとしない児童がいる。</p> <p>○全体的に音程もよくきれいな声で歌うことができるにも関わらず、自信がなく暗い表情で歌う児童が多い。</p> <p>○楽器を演奏することは好きだが、演奏するために必要な練習をすることができない。</p>	<p>○学習意欲が著しく低い児童が多い。</p> <p>○歌う時の表情が暗すぎる。</p> <p>○ゴールに向かって自分で学習を組み立てられない。</p>	<p>○児童が好む音楽と、学習で扱う音楽の共通点や違いを学ぶことで、様々なジャンルの音楽のよさや面白さに気付けるようにする。</p> <p>○暗いことを指摘しても余計に萎縮するだけなので、よかった点について伝える。歌詞や曲想からどのように表現したらよいか考え、ふさわしい歌声を意識させる。</p> <p>○スモールステップで練習を進められるようなワークシート、掲示を作成し、児童が自ら学習を組み立てられるようにする。</p>

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・「全ての児童が主体的につくりだす喜びを味わうことができ、学びに向かう態度を育てる」ことを重点目標とし、題材ごとに材料の特性を知り、その特性に合わせて、つくりたいものを言語化することやアイデアスケッチをすることによって発想を深め、イメージにあった作品がつけられるようにする。
- ・イメージを形にするためにも、初めて扱う用具の指導を特にていねいに行い、以後継続的に使うことで正しく用具が扱え、材料を活用できるようにする。造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・作品鑑賞の時間を、作品完成後だけでなく制作の途中にも設け、友だちの作品のよさに目を向けさせ、自分の作品のよさにも気付くことを通して、つくりだす喜びを味わうとともに、豊かな情操を養う。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○何でも意欲的に、楽しく取り組むことができている。 ○パス、のり、はさみの正しい使い方を覚え、活用できる児童とそうでない児童がいる。 ○感じたことや想像したことを絵や立体に表せるが、取りかかりに自信をもてず、制作が進まないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その場の指導では覚えてはいるが、学習が定着するには至っていない。 ○周りの取り組み方を見ながら、自分の制作を進める傾向にあるため、取り組みに時間がかかる。 ○のりなど、指先を使うことを嫌がる。指先が思ったように使えない児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に道具の使い方をふり返り、題材に盛り込む。 ○取りかかりの始めを教師と共に行うことで、安心して制作をできるようにする。 ○継続的に道具の使い方をふり返り、題材に盛り込む。
	<ul style="list-style-type: none"> ○どの題材でも意欲的に楽しく活動できている。 ○パスや絵の具の扱い方の覚えが早く、創意工夫をしながら作品制作に取り組んでいる。クラスで数人、使い方のルールを徹底できていない。 ○友達の作品を見ながら良いところや工夫を見つけ認め合う姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲は高いが忘れ物が多い。 ○一部の児童がパレットの使い方のルールを守れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級と専科で協力しながら、も持ち物の徹底を図る。 ○低学年の内から使い方を徹底できなければ、戻すことは難しい。授業の始めに取り扱い方の復習をしたり、個別指導に努めたりする。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ○つくることを楽しみながら意欲的に取り組める児童多い。 ○これまでに学んできた技法を活用できるようになった。 ○制作しながら自然と友達のことにも気にして鑑賞でき、良いところや工夫を見つけ伝えることができる。 ○道具の使い方のルールを忘れている児童がいる。 ○毎時間ではないが、集中力が持続せず、途中で制作する手が止まってしまう児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具の使い方の復習を行えていない。 ○制作する集中力が続かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組めるような導入や言葉かけをさらに工夫し、授業を魅力的なものにする。 ○鑑賞についての見方・考え方を日々の授業で身に付けさせる。また、良い言葉と悪い言葉の例を示しながら、自分に置き換えて考えさせるように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入やまとめの時間の切り替えが上手くできない。 ○共同で作品をつくることを好み、自分の意見をアイディアスケッチや言葉で伝え、友達と協力しながら取り組むことができる。 ○制作中や鑑賞の際に、相手が傷つく言葉をしてしまう児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を制作する時、手を止めて話を聞く態度になることの切り替えに時間がかかる。 ○友達の作品の良さや工夫を見つけたり、認めたりすることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の初めに制作時間数や制作の流れをつかませる。板書やワークシートを工夫し、制作の見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。 ○鑑賞についての見方・考え方を日々の授業で身に付けさせる。また、良い言葉と悪い言葉の例を示しながら、自分に置き換えて考えさせるように指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の時間内で作品が仕上がらない児童が数名おり、個別の対応をしている。 ○作品制作に対する意欲が高く、友達が困っていると手助けしたり、アドバイスをしたり自然とできる学年である。 ○共同で作品をつくるこ 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品と向き合い、より良い作品になるようにどのようにするべきなのか、考え自らの力で切り拓くことに課題がある。 ○自己評価が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品制作の途中でミニ鑑賞の時間をとり、工夫を見つける時間を増やす。また、児童同士で悩みを相談したりアドバイスをもらったりできるような環境をつくり、教師に頼りすぎず、問題解決能力を高めていく。 ○鑑賞カードだけでなく、鑑賞の発表や付箋を使った方法を駆使しながら、自己評価を高める。

	<p>とを好み、自分の意見をアイデアスケッチや言葉で伝え、友達と協力しながら取り組むことができる。</p> <p>○友達の作品の良いところや工夫を見つけ、認めることができる。しかし、自分の作品に対する自己評価は低い。</p>		<p>また、様々な画家の作品を見せながら、上手い下手ではない、自分が表したい作品をつくること、自分が納得する作品をつくることが図工であることを日々伝えていく。</p>
6年	<p>○授業の時間内で作品が仕上がらない児童が数名おり、個別の対応をしている。</p> <p>○意欲は高いが、教師を呼んで確認する場面が多くある。</p> <p>○学習意欲が非常に高く、楽しく制作する様子が見られる。</p>	<p>○作品制作の見通しがもてない児童が多い。</p> <p>○作品と向き合い、より良い作品になるようにどのようにするべきなのか、考え自らの力で切り拓くことに課題がある。</p> <p>○自己評価が低い。</p>	<p>○題材の初めに制作時間数や制作の流れをつかませる。板書やワークシートを工夫し、制作の見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。</p> <p>○鑑賞カードだけでなく、鑑賞の発表や付箋を使った方法を駆使しながら、自己評価を高める。また、様々な画家の作品を見せながら、上手い下手ではない、自分が表したい作品をつくること、自分が納得する作品をつくることが図工であることを日々伝えていく。</p>

(8) 家庭科

家庭科の重点

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	○家庭科に対する興味関心が高い。	○裁縫は技能に個人差が大きく時間の取り方が難しい。	○裁縫は進度の速い児童が取り組める課題を準備するだけでなく、得意な児童を教室中央に配置し苦手な児童を手助けしやすい環境をつくり、皆が技能を習得できるよう指導する。
	○裁縫に関しては約3分の1、調理に関しては約半分の児童が家庭でも実践している。	○調理はコロナ感染防止のため実習ができないので、技能を身に付けさせるための指導法をより研究する必要がある。	○調理は学校では映像等を利用して、技能を視覚的に習得し、実践については家庭の協力を仰ぎ家庭学習（宿題）を行う。
	○クラス全体で学び合う姿勢が見られ、実践に関してはわからないことを積極的に聞いてくる児童が多い。	○家事と学習とを関連付け、家庭生活に活かす指導を行う必要がある。	○日常生活の課題を授業の学習課題として取り上げるなど、より生活に結び付くよう学習内容や指導方法を工夫する。
	○家事経験のあまりない児童も見受けられる。		

6
年

- 家庭科に対する興味関心は高く、実習には積極的に取り組む姿勢がみられる。
- 裁縫に関しては、約4分の1、調理に関しては約3分の1の児童が家庭でも実践している。
- 生活経験による技術の差や、学習に対する意欲の差が大きい。

- 裁縫は技能に個人差が大きく、時間の取り方が難しい。
- 調理はコロナ感染防止のため実習ができないので、技能を身につけさせるための指導法をより研究する。
- 家事と学習を関連付け、家庭生活に活かすため、意欲的に取り組めるよう実践を伴う指導を工夫する。



- 裁縫は苦手な児童の手助けをしやすいよう、得意の児童名を全体に知らせ、児童同士が教え合う環境をつくれるよう座席などを工夫する。
- 調理は学校では映像などを利用し、技能を視覚的に習得し、実践については家庭の協力を仰ぎ家庭学習（宿題）を行う。
- 生活場面を設定し実践を伴う課題に取り組み、生活をよりよくするための知識や技能を取得できるよう指導法を工夫する。

(9) 体育科

体育科の重点

- ・心と身体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し学び合い、協力して課題を解決する。
- ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、自己の考えや気づきを他者に伝える力を養う。
- ・その特性に応じた各種の運動の行い方や基本的な動きや技能を身に付けるようにするとともに、身近な生活における健康・安全について理解する。
- ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との技の交流が少ない。 ○友達と協力して活動する経験が乏しい。 ○運動量が少なく、体を自在に動かすことができない。 ○集団行動が苦手。友達と適切な距離を取ったり、調節したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は感染拡大防止のため、活動を設定することが難しい。 ○疲れやすく、体の動きもぎこちない児童が多い。 ○人との適度な間隔をとったり、スピードの調整をしながら、動くことが苦手な児童が多い。整列の際に友達との間隔を考えて後に下がるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○状況をみて、関わり合いが生まれるような場の設定やグルーピングの工夫を行う。振り返り時間の確保をして交流を図る。 ○分かりやすい場の設定を心がける。シンプルで運動量がしっかりと確保されるような場の設定をする。 ○多様な動きを作る運動遊びを取り入れる。学習過程を工夫し、1単位時間で活動を組み合わせ、単元を柔軟に横断させて様々な動きができるよう工夫する。 ○段階を追ったり、手がかりとなる目印を用意したりしてスモールステップで学びが積み上げられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで楽しく活動できている。 ○振り返りの活動を通して、友達の良い所を褒めることができている。 ○めあてに対する意識が 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。 ○工夫すべきところの提示が不十分であり、思 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の最初に学習の流れを説明し、毎時間のめあてを明示し、振り返りまでをきちんと行うことで、めあてに沿った活動の重要性に気付かせる。 ○振り返りの時間を確保し、工

	<p>低い。</p> <p>○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>考・判断を見とれていないことがある。</p> <p>○ルールの明確な指示が必要。理解が確認できた上で活動を行う。</p>	<p>夫した活動ができた児童を賞賛したり、全体でよかったところを共有したりする。</p> <p>○ルールの明確化。競争であれば、どのチームも1位になることができるような運動遊びにする。</p>
3年	<p>○進んで楽しく活動できている。</p> <p>○友達の良い所を褒めることができている。</p> <p>○めあてを最後まで意識して活動できていない。</p> <p>○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。</p> <p>○工夫すべきところの提示が不十分であり、思考・判断を見とれていないことがある。</p> <p>○勝敗のことに集中してしまう。</p>	<p>○「めあて」と「振り返り」が適切にできている児童を紹介したり、友達と「めあて」を確認したりして、意識できるようにする。</p> <p>○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。</p> <p>○勝敗にこだわるのではなく、めあてを意識した動きをすることを前もって伝える。</p>
4年	<p>○意欲的に活動している児童が多いが、技能を身に付けるために練習することに消極的である。運動に苦手意識をもっている児童も、友達に教えてもらうことで粘り強く取り組むことができている。</p> <p>○マット運動や鉄棒などの器械運動の基礎的な技ができない児童が少なくない。</p> <p>○体が重くて自分の体を支えられない、体の大きさの割合に比べて筋肉が少ない。体幹を支える筋力がない。</p>	<p>○自分のめあてを意識できない児童への個別指導が十分でない。</p> <p>○個別に指導する時間の確保やポイントの提示などが十分でない。</p>	<p>○「めあて」と「振り返り」が適切にできている児童を紹介したり、友達と「めあて」を確認したりして、意識できるようにする。できたことに対する振り返りや賞賛を積み重ねる。</p> <p>○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。</p>

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○動きのポイントを示すことで友達と教え合っ て自己の課題を解決し ようとする児童が多 い。 ○運動には前向きに取り 組むが、運動経験に偏 りがあり、技能差が大 きい。 ○体の使い方に課題があ る児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と見合う際の視点を もたせることで課題解決 学習をより充実させる。 ○自己の課題に合った練習 をできる場が必要であ る。 ○基礎基本となる動きを継 続して取り組んでいく必 要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやトリオ学習をより充実さ せるために、学習資料や学習カ ードを活用する。 ○スモールステップで取り組め る場を用意し、恐怖心を取り 除くことができるようにす る。 ○毎時間の導入で基礎基本の動 きを取り入れることを継続す る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好き ではない児童がいる。 ○運動の技能差が大きい。 ○技能を身に付けるため のポイントや技能を高 めるために工夫するポ イントを理解できない まま取り組んでいる児 童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の特性をしっかりと 味わわせる必要がある。 ○学習カード・学習資料を 使った課題解決学習が 取り組めていない。 ○技能を身に付けるため に必要な知識や、技能を 高めるための教え合い などの工夫の指導の工 夫が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の特性をしっかりと味わ わせる単元構成と、ゲーム性を 用い、運動量を十分確保し取り 組ませる。 ○技能を高めるために必要な学び 方を指導し、高まりを評価する ことで、達成感を味わわせるこ とができるようにする。 ○学習カードの活用や、教え合い で気づきの場面を増やし、必要 な知識やその活用の仕方を身 に付けられるようにする。

(10) 外国語活動・外国語

外国語活動・外国語の重点

- ・外国語を用いた言語活動を通し、言語や文化について、体験的に理解を深める。
- ・自ら外国語で聞いたり話したくなるよう、コミュニケーションの目的や必然性のある場面、状況などを設定する。
- ・動作を交えた挨拶、感謝、簡単な指示等をやり取りの中で行い、自分の考えや気持ちなどを伝え合うやり取りの楽しさを実感させる。
- ・身の回りの物のついて発表する際、実物やイラスト、写真などを見せながら話させたりするとともに、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて話させたりする。
- ・ALT や ICT 機器を活用し、ネイティブな発音を多く聞かせる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての外国語活動で全体的には楽しそうに授業に参加している。 ○英語の繰り返し表現など、あまり積極的に声に出さない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな課題はないが、より積極的に授業に取り組めるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より担任とALTの連携を図り、より積極的に声を出し、英語を使う楽しさを感じるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には楽しそうに取り組んでいるが、苦手意識を感じている少数の児童とに差を感じる。 ○間違ふことや声を出すことに恥じらいがあるのか、あまり積極的に声に出さない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ英語での指示のため、何をやっているか分からなくて取り組みづらく感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より担任とALTの連携を図り、指示の補足説明や支援を丁寧にし、教師自ら積極的に声を出し、英語を使う楽しさを感じるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的にチャンツやソングを歌っている児童が多い。しかし、一定数外国語でのコミュニケーションに抵抗ある児童がいる。 ○能力差が非常に大きい。 ○ローマ字の定着が不十分な児童が約3分の2いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○元々コミュニケーションを取ることに苦手意識のある児童にとって、不慣れな言語でやり取りすることはハードルが高い。 ○個人的に外国語を学んでいる児童と全く触れてこなかった児童がいる。 ○中学年での学習が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任やALTと話す内容を確認してから友達とやり取りを行うようにする。 ○初めて外国語を学習する児童の目線に立つ。絵やジェスチャーを積極的に取り入れ、言語だけでなく視覚情報からも理解を促す。 ○ローマ字に特化した学習の時間を設ける。パソコンも利用し興味を高める。

6年	<ul style="list-style-type: none">○スピーチは楽しみながら取り組んでいる。○個々の能力差が非常に大きい。○アルファベットの定着が不十分な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">○個人的に外国語を学んでいる児童と全く触れてこなかった児童がいる。○外国語でのコミュニケーションに抵抗ある児童がいる。	<ul style="list-style-type: none">○言葉を書き取る機会を毎時間とり、アルファベットの定着を図る。○チャンツやソングなど、楽しみながら発音できる機会を多くとり、外国語に慣れ親しめるようにする。
----	---	--	---